

東海地区協議会 2020年度  
副会長（会務担当） ご挨拶

副会長（会務担当） 下田 硬範

私たちが住み暮らす東海地区は、国土の中心に位置し、恵まれた交通インフラの特性を活かしてモノづくりを中心とした産業で発展して参りました。また、地区内各地に散在する伝統文化や自然環境を活かした観光としての側面でも魅力のある地域であります。中部国際空港第2ターミナルが開業し、2027年にはリニア中央新幹線の開通が予定され、今後さらなる発展を遂げる力を秘めています。しかし、その魅力が各地単独でのものに留まれば大きな発展は見込めません。J Cの連携を活かした広域的なネットワークで個々の魅力である点をつなぎ線へと昇華させ、活力ある地域へと進化していかなければなりません。さらにはその力を活かして今後予測される南海トラフ巨大地震、近年乱発する災害への備えも必要です。

そのために、各地域に於いて行政や各種団体をはじめ、多様な視野、視点をもつ方たちと明るい未来に向けての談義する場を設け、そこでの意見を取り入れた地域経済ビジョンの策定に取り組めます。そして東海地区協議会最大の発信の場で広く、強く展開することで広域経済圏の重要性の認知度を高めます。それぞれの地域を良くしたいという人々の思いを結集すれば、必ずや東海全体の経済発展につながり、疲弊しない希望溢れる東海が確立されます。

また、災害の復旧、復興がうまく進まなければ、経済そのものに深刻なダメージをうけることとなります。これまで東海地区協議会では災害への備えとしてL O M間での防災協定締結に注力し成果をあげて参りました。さらなる備えとして行政と連携してJ C間だけでなく、各種団体や企業などに目を向け、広域的な支援体制の必要性を訴えかけ、ブロック協議会、L O Mが万全な体制をつくりあげることができるよう働きかける必要があります。

最後に、責任世代として自らを律して真剣に取り組み、東海から日本に活力を与えられる、誰もが輝き希望溢れる東海の創造に尽力して参ります。